

3 学系

哲学・思想学系

教員数	教員等数 (人)	教授 12 (9)	助教授 6 (7)	講師 3 (3)	助手 1 (1)	技官[準研] 1 (1)
	異動状況 (人)	退職・転出 — (5)	昇任 1 (—)	採用 2 (2)	学内 — (—)	
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数			学会発表数	
		国内	国外	国内	国外	
		36 (50)	7 (2)	12 (13)	9 (2)	
	受賞数(件)	— (—)				
	研究費等		採択件数	採択率(%)	金額(千円)	
		科学研究費	5 (2)	31 (18)	7,200(4,400)	
		学内プロ	4 (6)	44 (66)	2,300(3,200)	
		奨学寄附金件数・金額	件		千円 (件	千円)
受託研究件数・金額		1件		3,500千円 (件	千円)	
	受託研究員	人 (人)				
施設・設備						

・ () は前年度の数値を示す。

1 哲学・思想学系の活動

当学系の平成15年度の教育研究活動は、哲学、倫理学、宗教・比較思想学の各分野およびそれらの全体的連関の両面において、向上的に遂行された。研究発表のうち論文・著書については、国内発表数は減少したが、国外発表数が二倍以上の増大を示している。学会発表数においても国内発表数が倍加している点が特徴的である。発表の実質的側面では、各学会の学術誌を中心とした学術論文の掲載が遂行された一方で、国内および国外の社会的貢献としての啓発的な提言を主題とする論文も目立っている。他方、全国レベルの各学会の中心をなす役員等の活躍の度合いも伸張し、全体として学術研究活動はきわめて向上的である。人事面においては、欠員補充人事（2名）、昇任人事（1名）の審議が着実に進められ、順調に実現された。科学研究費補助金については、前年度と比べて申請数も増大し、二倍以上の採択件数を獲得したが、目標の半数の採択率には及ばなかった。しかし本年度は、採択されなかったものの、新規に学系全体の研究プロジェクトの申請が志向され、今後もこの面での研究が継続して行われることとなった。学内プロジェクトについては、前年度より多少減少した。さらに本年度は新規に、受託研究（日本学術振興会）が遂行された。

2 自己評価と課題

研究の一層の向上を図るためには外部資金の獲得のための努力を進めること、またそれに伴う人事の着実な実現が課題となる。新研究科が完成に近づきつつあるなかで、人事の遂行に基づく教育研究の充実化が当面する課題であるが、どこまでも本学系の独自の研究基盤を充実化させつつ、他方で視野の広い、時代や社会の動態に見合った研究者相互の協力体制を構築することが切実な課題となってきている。そのためには科研費および学内プロジェクトにおいても各個人の研究歴を超えた研究者相互の斬新かつ創造的な研究企画が積極的に求められる。また受託研究の受け入れについても今後積極的に進めていく必要がある。